

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	フotonサイエンスが拓く次世代 ピコバイオロジー	申請大学名	兵庫県立大学
申請大学長名	清原 正義		
プログラム責任者	新免 輝男		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング大学院のプログラムを推進するのにふさわしい研究・宿泊施設を備えており、研究に対する教員の意識が高い。 ・グローバルリーダーを目指す博士課程学生の教育という、リーディング大学院プログラムの趣旨に沿った運営を行うために予算配分を変更するなど、しかるべき対応（PDを多数雇用するという計画をやめ、学生指導のための教員を雇用することにしたことなど）がなされている。 ・ピコバイオロジーの中心を担う充実したラマン分光の設備や、大学院学生の宿泊施設など、本プログラムを推進する上で必要な環境は整っている。 ・ピコバイオロジー大学院専攻は、平成25年4月開設に向けてカリキュラムの整備などが進められているようだが、今夏の入試については学内の大学院進学希望者への説明はなされているが、外部への広報活動が遅れているように見受けられる。特に初年度は、外部からの入学希望者がどの程度確保できるか懸念される。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムはグローバルリーダー人材育成のプログラムであって、SPring-8の専門家養成のためのものではない（研究成果の追求に重点が偏らない）ことを、連携先機関である理化学研究所側に明確に認識してもらった上で、グローバルリーダーを目指す博士課程学生の教育を推進することが望まれる。 ・本プログラムの成否は、本プログラムの趣旨を理解し、研究（潜在）能力だけでなく、グローバルリーダーに必要なポテンシャルの高い若者を引き付け入学させられるかにかかっている。地理的ハンディを克服し、研究力と、施設の充実やユニークさをアピールすることにより、少数であっても、個性ある多彩な人材を広く外部からも集める努力が望まれる。 ・入試科目が生命理学専攻とほとんど重複しているため、物理系の学生も受験しやすくするなど入試の在り方を再検討することが望まれる。 ・プログラムコーディネーターはじめ、中堅教員の意見を尊重し、大学全体として、将来に向けて持続的に本プログラムを盛り立てて行くことが必要である。 ・他大学プログラムとの学生同士の交流の企画という提案が面接を行った学生からあったが、このような学生提案も尊重し、学生の自主的な活動を促すことも必要である。 			